

人の絆と営みが織りなす幸せなおくしリズム



おくしり
奥尻町



うにまる
夏はフェリーターミナルなどでよく見られる。血液型はY型。
コンパが好物。

まちの紹介

江差町の西北61kmの日本海に浮かぶ島が奥尻町です。

島全体が「檜山道立自然公園」に指定された非常に豊かな自然と、球島山を中心とした360度パノラマの日本海。沈む真っ赤な夕日と静かな波打ち際。都会の喧騒とは全く無縁なゆったりとした「島時間」を味わうことができます。

うになどの豊かな海産物をはじめ、潮風を受けて育ったフトフから作られる奥尻ワインや、海を眺めながらのびのび過ごした奥尻和牛、奥尻米などの特産物を有しています。



まちのデータ

人口 2,591人(2019年8月末現在)
2月平均気温 -1.3℃
8月平均気温 21.2℃

●医療機関

国民健康保険病院、国民健康保険青苗診療所

●保育所・幼稚園・学校

青苗幼稚園、奥尻幼稚園、青苗小学校
奥尻小学校、奥尻中学校、町立奥尻高等学校

●買い物

スーパー、コンビニ、ホームセンター
個人商店 など

●主な観光地

なべつる岩、賽の河原、球島山、奥尻島津波館
稲穂ふれあいセンター

●温泉

神威嶽温泉

●主な特産品

特別純米奥尻(日本酒)、奥尻ワイン、奥尻和牛



鍋釣岩(なべつるいわ)



うに丼

生活の情報を集めよう！

●定住促進支援

◆交通費の助成／フェリー、航空機運賃の離島住民割引制度

●子育て支援

◆医療支援／3歳未満または非課税世帯に属する中学生までの初診時一部自己負担金
(医科580円、歯科510円)を除く医療費を助成
／課税世帯に属する中学生までの医療費を9割助成

先輩移住者を紹介！

とどろき 雄斗さん

(ゲストハウス「imacoco(イマココ)」オーナー)



平成30年4月、奥尻島に、ゲストハウス「imacoco(イマココ)」がオープンしました。オーナーは、御家族4人で奥尻島に移住してきた外崎雄斗さんです。

札幌市出身の外崎さんは大学在学中に京都で人力車夫として働きながらお金を貯めた後、世界一周目指しバックパッカーとして海外を巡りましたが、旅を続ける中で、観光名所としての景色よりも現地の人や同じ旅行者と交流した経験が強く印象に残り、「自分が旅好きな理由はこれだ！日本に帰ったら色々な人が交流できる場所を作ろう」と決意したそうです。

大学卒業後は、釧路市内の高校で英語教師として働いていましたが、いつかゲストハウスを経営したいという思いは変わらず、奥尻島の神威嶽(かむいわき)地域を初めて訪れた際に、「着いた瞬間、ここだ！ここでゲストハウスを開こう！」と、直感でビビビと感じたと外崎さんは笑います。

そして、「今ここに立ち戻れる、今ここを味わえる空間にしたい」という思いを込めて、念願のゲストハウス「imacoco」が誕生しました。

ゲストハウスには、旅行者が宿泊しているのももちろん、島外から奥尻高校に島留学している高校生も下宿しています。高校教師だった外崎さんにとって、下宿生の受け入れも夢の一つだったため、奥尻島で実現できたことに運命を感じているそうです。

「奥尻島は良いところですよ」と話す外崎さんは、島での暮らしに「不便は感じないし、これくらいがちょうどいい」と言います。

「都会のような発展は望まない。ただ様々な人が遊びに来てくれるような場所であり続けてほしい。日々の暮らしに疲れた人が、この島で充電して帰るとか、島の暮らしが肌に合う人は移住してもらって仲間に…とか、そんな島に、ゲストハウスにしたいですね。」

引用：「北海道創生ジャーナル創るVOL.9 2018.12」
北海道総合政策部地域創生局地域戦略課
平成30年12月発行、P.17

お問い合わせ先

奥尻町 地域政策課

〒043-1498 北海道奥尻郡奥尻町字奥尻 806 番地

TEL：01397-2-3403 FAX：01397-2-3445

